

抄 錄

肺炎患者ノ鼻腔及咽腔ニ於ケル

「インフルエンザ」菌

Stillman; Journal of Exp. Medicine, Jan, 1922, 35, No. 1.

スチルマン氏ハ、健者千〇七十七人ノ咽腔中、其三百三十二人即三〇%ニ於テ「インフルエンザ」菌ノ存在セルヲ證明シ且又鼻腔内ニハ之ニ反シテ稀ニ存在スルヲ知レリ。然ルニ肺炎患者ニ於テハ、此%ハ著シク増加セルヲ見ル。即格魯布性肺炎三十一例ノ咽頭分泌物ヨリ培養シテ其十八例ニ「インフルエンザ」菌ヲ分離シ得、鼻腔内ヨリハ九例ニ於テ之ヲ證明スルヲ得タリ。尙又此三十一例中、咽頭又ハ鼻腔ヨリ該菌ヲ培養シ得ザリシモノニ於テモ、其喀痰中ニハ之ヲ證明シ得ルモノアリ。斯クシテ此全三十一例中ノ三十例即八十五%ニ於テハ、此等孰レカヨリ「インフルエンザ」菌ヲ分離シ得タリト。(T生抄)

神經黴毒ニ對シ砒素劑ヲ有效ニ

作用セシムル一新法

The Journ. of the Americ. Med. Assoc., Jan. 28, 1922.

コルブス外三氏ハ、從來動物又ハ人間ニ對シ、高張性食鹽水ヲ靜脉内ニ注射スル時ハ、其脊髄液壓ハ著シク低下シ、後一定時ニシテ更ニ復舊スルノ事實アリ、而シテ此壓力ノ再ビ上昇スル際ニハ、血液中ノ成分ハ容易ニ腦脊髄液中ニ移行スルモノナリトナシ、此關係ヲ利用シ、血管内ニ注入セラレタル「サルワルサン」ヲ、容易ニ腦脊髄液中ニ移行セシメ、以テ諸種ノ神經黴毒ヲ治療セントセルモノニシテ、氏等ノ應用セシ方法ノ概畧ハ、午前十時ニ、十五%食鹽水一〇〇珵ヲ靜脉内ニ注入シ、其儘寢臺上ニ臥セシムルコト六時間(此時ガ即一旦低下セシ腦脊髄液壓ノ再ビ高上スルニ當ルト)ノ後「ネオ・アルセナミン」〇・九瓦ヲ靜脉内ニ注入スルナリト。此一回ノ治療ヨリ一週間後更ニ又同様ノ第二回注射ヲ施シ、通例之ヲ五回反覆スト。而シテ氏等ハ此療法ヲ腦脊髄黴毒、脊髓癆等ノ二十八例ニ應用シ效果アルヲ見タリト。(T生抄)

喉頭結核ニ對スル「シヨルムグラ」

油 (Chaulmoogra oil) ノ應用

Lutens; The Journ. of the Americ. Med. Assoc., Jan. 28, 1922.

「シヨルムグラ」油(大楓子油製劑)ハ癩ニ對シ、著シク效果ヲ認メラルルニ至リシモ、結核ノ治療劑トシテ應用

セラレタルヲ知ラズトテ、リユウケン氏ハ二例ノ喉頭結核患者ノ局所塗布藥トシテ之ヲ應用シ、其主ナル結論トシテ、

1. 「シヨルムグラ」油ノ喉頭結核ニ對スル主ナル價值ハ、其嚥下痛及嚥下困難ヲ緩解スルニ在リ
2. 此作用ハ「コカイン」ノソレニ反シテ持續性ナリ
3. 結核性變化モ、是ニヨリテ他ノ藥劑ニヨルヨリモ比較的輕快スルガ如シ。(T生抄)

吃逆ノ一療法

Hans Reh; Münch. Med. Wochenschr. Nr. 52, 30, Decemb, 1921.

昨春外觀上流行性ニ現ハレタル吃逆發作症ニ對シテ其三例ヲ治療セルレー氏ハ、〇・四%「コカイン」溶液ヲ毎二時間ニ一茶匙内服セシメ、一回乃至三回ノ應用ニテ、凡テ持續性效果ヲ認メタリト。(T生抄)

流産ニ關スル新法律

ウーヘン通信 The Journ. of the Am. Med. Ass., Jan. 28, 1922.

オーストリアニ於テハ從來充分ナル醫學的理由ヲ根據トセザル人工流産ハ犯罪トシテ禁ゼラレタリシモ、目下同國國政ニ勢力ヲ有スル社會黨ハ、出産制限ノ急務ナルヲ認メ、妊娠三箇月以前ニ於テハ、醫師ノ手術ノ下ニ、

妊婦ハ如何ナル場合ニ於テモ自由ニ人工流産ヲ施シ得ル法律案ヲ國會ニ提出セリト。(T生抄)

肺炎及肺水腫ニ於ケル刺絡ノ代リ 二橈骨動脈ノ切斷

Münch. Med. Woch., Nr. 46, Nov. 18, 1921.

エックスタイン及ネッゲラート兩氏ハフライブルグ大學小學科臨牀ニ於ケル實驗ヲ基礎トシテ結論シテ曰ク、肺ノ炎症機轉或ハ肺水腫ニ基ク小循環系障礙ノタメニ來ル急性心臟衰弱ニ際シ著者等ハ刺絡ニ代フルニ橈骨動脈ノ切開ニヨル瀉血ヲ賞用シタリ。本法ハ多數ノ場合同生の手段タリト考ヘラル。殊ニ心臟力沈墜ニヨリ刺絡ガ無效果ニ終ル際ニテモ然リ。此手術ノ後、手ニ何等障害ヲ遺サズ。實地醫ニモ困難ナク施行シ得」ト。

而シテ其法ハ、手關節ヨリ一横指上方ニ於テ橈骨動脈ヲ露出シ、之ニ切開ヲ加ヘテ適量ノ血液ヲ洩シ、後血管壁ニ縫合ヲ施スモノニシテ、此手術ハ數秒間ニテ足り、靜脈ヲ求ムル際ヨリモ容易ニ此動脈ヲ露出シ得、且此際又麻醉ヲ要セズト。尙此瀉血量ハ成人體量一疋ニ付五・〇珄(ロムベルグ氏)即チ約三〇〇乃至五〇〇珄、稍成育セル乳兒ハ一〇〇珄其他ハ一五〇珄(一・〇—四・五歲一〇〇—一五〇珄)ナリト。(島岡厚吉抄録)